HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

DOHaDの観点から考える乳児栄養

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2015-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木ノ内, 俊 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2830

DOHaD 研究（ISSN 2187-2597）
2014 年 第 3 巻 第 1 号　18 頁

SY2-02
DOHaD の観点から考える乳児栄養

（株）明治・食機能科学研究所
木ノ内　俊

我々は、乳児用ミルクを中心に、妊婦･乳児･幼児用の各種栄養食品を設計･製造･供給するとともに、それぞれの栄養に関する情報提供や指導を行っている。乳児用ミルクの栄養設計においては、母乳の成分組成を参考にしながら、母乳栄養児に近い成長や発達が得られることを目指す。近年は、DOHaD の概念の広がりとともに、ミルクを飲む間の発育だけでなく、離乳、成長後、さらには加齢後の健康や疾病への影響についても留意する観点の重要性が高まっている。

乳児期を中心として妊娠(胎児)期や幼児期の栄養環境がどのような DOHaD 的影響をおよぼし得るかを評価するのに、我々は、哺乳量発育調査、ヒト乳児での哺育試験、母子コホート調査等に取り組んでいる。しかし、ヒトでの直接的な情報が得られる可能性がある一方で、得られる評価指標が限定的になりがちで、長期的視野で評価をするには障壁が大きい等、DOHaD 的観点での評価として得られる情報は必ずしも多いとは限らない。そのため、動物を使った評価にも取り組んでおり、これまで、ラットを用いた妊娠期の栄養の評価系や、数種のラット人工哺育技術を使い分けた乳児栄養の評価系等を活用し、栄養環境の DOHaD 的影響の評価を進めてきている。今回は、これらの検証例と得られた興味深い知見のいくつかを紹介したい。